

FACULTY OF LIFE SCIENCES



- 経済学部
- 経営学部
- 法学部
- 現代社会学部
- 国際関係学部
- 外国語学部
- 文化学部
- 理学部
- 情報理工学部
- 生命科学部
- アントレプレナーシップ学環

生命科学部事務室

〒603-8555 京都市北区上賀茂本山
TEL.075-705-1466
<https://www.kyoto-su.ac.jp/>



公式LINE
@k.s.u



生命科学部 Instagram
@ksuseimei



公式 YouTube
@KyotoSangyoUniversity



京都産業大学
Web サイト



生命科学部 X
@KSUseimei

※本誌に登場する人物のプロフィールや教育内容、施設などの情報は取材時のものであり変更になる場合があります。

ABOUT

Faculty of Life Sciences

生命の仕組みを
解き明かし、
社会に生かす
力を育てる

遺伝子やタンパク質などの分子レベルから地球規模の生態系まで、あらゆる生命活動のメカニズムを探究します。最先端機器を用いた実験・実習や、第一線の研究者による指導、企業と連携した独自の授業など、全国屈指の「設備」「教員」「カリキュラム」を整備。この充実した環境で、最先端の分野を探究するか、生命科学と社会の架け橋を目指すか、生命科学に求められる現代の人材を、2つの学科で養成します。

詳細はWebへ



「今」そして「これから」の社会で
生命科学に期待されることは何か？

世界が直面する課題には、さまざまな要因が絡んでいます。そこで京都産業大学では社会の諸問題を「医療・健康」「食料・資源」「環境・生態」の3領域に集約。生命科学と社会との接点から学びの領域を見つめ直すことで、専門性が高く、課題解決力に優れた人材を育成します。

社会と暮らしを網羅する3領域



実験研究から
課題を探究

研究成果を
社会に活用

専門性を深化させ、
生命科学の最先端に挑む

先端生命科学科

- 生命医科学コース
- 食料資源学コース
- 環境・生態学コース

環境と人の未来を
生命科学でデザインする

環境生命科学科*

- 環境と社会コース
- 食と農コース
- 医療と健康コース

※2027年4月 産業生命科学科から
名称変更予定



MAP of Keywords

多彩なキーワードが示す、生命科学部の学びの地図。多様な知識をむすび、新たな価値をうみだす学びは、あなたの可能性を広げ、未来への扉を開きます。さあ、ここから探究の旅に出かけましょう。

Pick Up

タンパク質～構造生物学～

タンパク質の形から迫り二成分毒素の作用機構を明らかにする。

昆虫～養蜂学～

遺伝子情報をもとに刺さないミツバチをつくる。

里山×自然共生システム

地域生産物の付加価値化や地域内資源循環をテーマに研究する。

生態学×政策

自然環境を生かして、さまざまな社会課題を解決する。

異なる2つの視点から
生命科学を学ぶ

「実験科学」に重点を置いた「先端生命科学科」と、「社会科学」の思考・視点を取り入れた「環境生命科学科*」の2つの学科を設置。共通の科目で「生命科学の基礎知識」を修得しながら、さらなる専門性を身に付けます。

FEATURES

生命科学部の特長



Feature-1 基礎から発展へと 接続する教育体制

1年次は基礎学修を徹底し、2年次からは専門分野を深化。3年次以降、本格化する研究活動に向けて、段階的に学ぶことができるカリキュラムを設定しています。他大学に例を見ない少数教育、最先端の研究に取り組める研究施設、豊富な研究実績を持つ教員による学修指導など、学生の能力と探究心を存分に引き出す環境を完備。確かな知識と技術を併せ持ち、社会課題の解決に寄与する優れた人材を育成します。

実験・実習科目



豊富な実験科目を通じて最先端の研究技術を修得する。

- クライオ電子顕微鏡
 - 細胞培養室
 - BSL3施設 など
- これらの充実した施設・設備で、最先端の実験・実習が可能です。

西日本の私立大学初導入！

フィールドワーク科目



実践志向型の講義・演習を通じたスキルを修得する。

小豆島でフィールドワークを実施！
温室で植物を使った実験も可能！
生命科学が社会でどのように活用されているかを直接体験します。

グローバル・サイエンス・コース



英語を武器に世界に挑むことのできる理系産業人の育成を目指す。

海外サイエンスキャンプでは、フィンランドで短期留学プログラムを実施！
短期間で多彩な体験と刺激を受け、将来のキャリアを考えるきっかけに！

先端生命科学実習



タンパク質やDNAをはじめ、植物、昆虫、酵母菌など幅広い実験試料を用いて実験・研究を行います。充実したさまざまな研究設備を生かして実験結果を分析・解析しながら、生命科学に関する種々の授業から得た知識の理解を深めます。

生命科学PBL2



生命科学の知見や技術を活用し、地域の医療、食農、環境分野における課題に取り組みます。公園や学校など学外の協力を得ながら、グループで課題解決を実施し、総合的な課題解決力を養います。そのプロセスの中で、実社会における課題解決の取り組みに必要なスキルを学び、自身のキャリアビジョンの検討と行動力を養います。



Feature-2 一人一人の未来に 合わせたコース制度

1年次で生命科学の基礎を修得した後、3つの主コースから1つを選択。2年次春学期から専門的な分野の学びがスタートします。充実した実験・実習科目に没頭することで、関心のある分野の学びを深めます。また主コースとは別に、実験動物技術者、食品衛生管理者、教職課程、英語運用力の向上など、資格取得・スキルアップを目指す副コースも整備。希望する進路に応じて複数選択できます。



詳細はWebへ

先端生命科学科

詳細はWebへ



DEPARTMENT OF FRONTIER LIFE SCIENCES

最先端の研究で、生命の謎に挑む

「生命科学の時代」ともいわれる今日、その研究成果はさまざまな分野で応用され、社会を根幹から支えています。先端生命科学科では、分子・細胞から個体・生態系まで、生命の仕組みを統合的に理解する研究を展開し、最先端の生命科学を切り拓いています。十分な学識と実績を持つ教員の指導の下、高い専門知識と技術、倫理観を兼ね備えた人材を育成します。

基礎を徹底し専門の学びへと発展させる教育体制と豊富な実験科目

生命科学の基礎を徹底して学び、専門知識と高度な実験技術や手法を身に付け、最先端の研究に取り組みます。2年次からは3つの主コースから1つを選び、専門的な分野を学ぶことで、関心のある分野を柔軟に段階的に学びます。資格などの取得を目指す副コースを選択すれば、実験動物1級技術者、食品衛生管理者、食品衛生監視員の資格取得も可能です。

MAJOR SUBJECT 主コース

※選択した主コース以外の科目も履修可能です。

生命医科学コース

ヒトや動物の医療・健康に
貢献できる専門性を養う

核酸(DNA、RNA)・タンパク質などの生体高分子の構造、細胞や臓器の働きなど生命科学の基礎となる知識を修得。ヒト・動物の医療や治療法の開発につながる教育・研究を行います。



食料資源学コース

生命科学の手法で食料問題などの
解決方法を探究する

農業関連の動植物の生物学的特性や食料資源の生産と利用に関する知識を修得。食品の安全を守る検査の技術や品種改良により、食料問題の解決に貢献できる人材を育成します。



環境・生態学コース

生命科学をマクロに捉え、
生命と環境に関わる

環境とヒト・動植物の相互作用など、生命科学の中でもマクロ視点の専門分野を扱います。生態系を適切に維持する方法や生物多様性の解明を通じて、環境と生態の保全について学びます。



MINOR SUBJECT 副コース

主コースで学修した専門性を生かして資格などの取得を目指す副コースを用意。志向や卒業後の希望進路に応じて選択できます。 ※複数選択可

実験動物技術者養成コース

「実験動物1級技術者」の資格取得を目指し、実践的な知識と技術を修得します。

食品衛生管理者養成コース

食品衛生管理者、食品衛生監視員に必要な資格が取得できます。

グローバル・サイエンス・コース

生命科学の知識や技能を生かした英語運用能力を習得します。

教職課程コース

理科の教員免許状取得に向け、科学的な思考方法や教授法を学修します。



STUDENT VOICE

多彩な実験に挑戦し、楽しみながら生命科学の知識が深まる

猿渡 勇人 先端生命科学科 2年次 (大阪府・東海大学付属大阪仰星高等学校出身)

1年次の化学実験や2年次の生物学実験など、早期から多彩な実験に取り組むことができます。実際にハツカネズミを解剖してすい臓や小腸などの組織標本を作製したり、DNAやタンパク質の解析を行うなど、専門的なテーマに挑戦しています。最先端の器具・設備と先生の丁寧な指導の下、生命科学の知識と実験スキルを着実に磨けます。この学部独自のアドバイザー制度も魅力です。先生との定期面談などで、学びも学生生活も安心して充実させることができる環境です。

4-YEAR STUDIES

4年間の流れ 基礎から発展へと接続する教育体制と豊富な実験科目

1年次では生命科学の基礎を修得。1年次秋学期から切れ目なく続く実験科目と、連携して展開する講義科目。その積み重ねにより、研究活動に必要な生命科学の専門知識と高度な実験技術や手法を身に付けます。2年次春学期からは3つの主コースから1つを選び、専門的な分野の学びがスタートします。3年次秋学期から研究室に所属し、卒業研究に取り組みます。

想定される 進路

■研究者
■大学院進学
■技術営業

■教員
■公務員
■医療技術者

■NPO法人
など



講義と実験による 基礎づくり

2年次以降の専門的な学修に備え、生物学と化学をはじめとする生命科学の基礎を修得。秋学期からは実験科目も始まり、1年次から実践的な学びに取り組みます。

- 生物学通論／化学通論
- 先端生命科学演習1・2
- 化学実験
- フレッシュヤーズセミナー など

専門分野の学びが スタート

2年次からは関心のある分野に応じて主コースを選びます。充実した実験・演習科目を履修しながら、コースの学びを深めます。

- 生物学実験
- 先端生命科学実習1
- 解剖生理学
- 遺伝学
- 環境生態学 など

より高度な 研究能力を育成

専門とする研究分野の基礎を早期に修得するために、各教員の指導の下、3年次秋学期から研究室で活動を開始します。

- 先端生命科学実習2
- 生命科学特別研究1／生命科学プロジェクト研究1
- 生命医科学
- 食料資源学
- 保全生物学 など

卒業研究に 取り組む

4年間の集大成として卒業研究に取り組みます。論文としてまとめるだけでなく、口頭発表も行うことで情報発信能力を向上させます。

- 生命科学特別研究2／生命科学プロジェクト研究2

卒業研究テーマ例：

- ・脊椎動物由来のヒアルロン酸合成酵素の精製と活性測定
- ・作物根圏土壌から分離したダイズ根粒菌の共生特性の評価



先端生命科学実習

大腸菌、細胞、植物、食品などさまざまな材料を用いて、最先端の生命科学の実験の原理と方法を学びます。



化学実験

実験を通して、基礎的な実験操作法、データの解析法を修得し、物質やその化学変化について理解を深めます。



解剖生理学実習

動物における各器官の肉眼的・組織学的構造と機能について実習を行います。自ら積極的に手を動かして観察・実験することで、講義や教科書だけでは学ぶことができない事柄を学びます。



生物学実験

さまざまな生物を対象に生物学分野の基礎的な実験を行うことで、生命科学の研究を進めていくために必要な基礎知識や実験技術を身に付けます。

FACULTY OF LIFE SCIENCES

FACULTY OF LIFE SCIENCES

生命科学部

京都産業大学



詳細はWebへ

環境生命科学科

詳細はWebへ



※2027年4月 産業生命科学科から名称変更予定

DEPARTMENT OF ENVIRONMENTAL LIFE SCIENCES

実験室からフィールドへ：生命科学で環境と人の未来をデザインする

地球規模で環境問題が深刻化する今、その理解と持続可能な社会の実現は人類社会の大きな課題です。環境生命科学科では、前身の産業生命科学科が推進してきた「生命科学と社会の融合」をさらに発展させ、生命と環境の関わりを科学的に探究します。そして、地球の未来を守るために、自ら考え、行動できる人材を育成します。

環境・社会・実験室をむすぶ多様な学び

1年次からフィールドワーク科目を選択し、現地調査を体験できます。2年次以降は3つの主コースから1つ選んで専門の学びを深めるとともに、実験科目、課題解決型学習（Project Based Learning）、インターンシップ科目などの多様な学びから、生命科学に関する知識や技術を社会で活用する方法を学びます。必要な科目を選択すれば、卒業までに「自然再生士補」「2級ピオトープ計画管理士」の資格取得が可能です。

MAJOR SUBJECT 主コース

※選択した主コース以外の科目も履修可能です。

環境と社会コース

身近な環境問題を捉え、暮らしを築く

里山生態学などの学びを通して地域環境問題を理解・発見し、解決策を考察。環境分野に関連する生命科学の研究の成果と環境関連ビジネスとのむすびつきについても学びます。



食と農コース

「食べる」「作る」を学び、食の専門性を社会で生かす

農業関連の動植物を対象とした生命科学の研究成果と社会のむすびつきを探究。「食べる」「作る」ことを多角的に学修し、現代の農業や食品関連産業が抱える課題を考察します。



医療と健康コース

未来の健康を支える人材へ

医薬系・生命科学の研究成果と医療・医薬品関連産業とのむすびつきを学修。創業に関する知識や製薬医療情報などの社会科学的素養を高める、進路に直結した学びを展開します。



MINOR SUBJECT 副コース

主コースで学修した専門性を生かして資格などの取得を目指す副コースを用意。志向や卒業後の希望進路に応じて選択できます。 ※複数選択可

グローバル・サイエンス・コース

生命科学の知識や技能を生かした英語運用能力を習得します。

教職課程コース

理科の教員免許状取得に向け、科学的な思考方法や教授法を学修します。



幅広い学びを通して環境に対する見方が変化した

横田 真帆 産業生命科学科 3年次（長野県飯田風越高等学校出身）

細胞や遺伝子といった生物のミクロな世界から、森林、人間と自然、他の生物との関わりなども学んでいます。キャンパス周辺は自然に恵まれているため、大学の周辺でフィールドワークが行われることもあります。『里山生態学』では、人間と環境、他の生物との相互作用を学び、環境保全が結局は自分たちに返ってくることに気がきました。また、生命科学部では少人数教育を取り入れており、学生5人につき先生が1人ついて手厚くサポートしていただけます。

※2027年4月 環境生命科学科に名称変更予定

4-YEAR STUDIES

4年間の流れ 生命と環境をむすぶ学びと社会との連携

1年次では生命科学の基礎知識を修得。2年次からは3つの主コースから1つを選択し、専門的な学びが本格的にスタートします。各コースでは、農業生物学、環境経済学、公衆衛生学など、生命科学と社会をむすぶ多様な科目を学ぶことができます。さらに実社会と連携した課題解決型授業（PBL）やインターンシップ科目を通じて、生命科学の学びを社会に生かす力を養います。3年次秋学期から研究室に所属し、卒業研究で関心のあるテーマを深く探究します。

想定される進路

- 環境コンサルタント
- 農林・水産
- 製造業（食品・計測機器・分析機器など）
- 環境衛生
- 公務員
- 教員 など



社会に生かす知識の土台作り

生命科学を学ぶ上で必要な導入知識を養い、生物学と化学の基礎知識も修得します。身に付けた知識を伝える力を育成するため、課題発表やグループ学修を積極的に行います。

- フレッシュャーズセミナー
- 生物の基礎／化学の基礎
- 環境生命科学演習1・2
- 生命科学フィールドワーク演習 など

生命科学と社会のニーズ2つをむすぶ学びの展開

主コースを選び、豊富なコース科目から関心のあるものを選択します。また、PBL（課題解決型学習）なども導入し、課題発見力や発信力を継続して磨きます。

- 動物園からひろがる環境学
- 里山生態学
- 環境経済学
- サイエンスコミュニケーション
- 生命科学PBL1 など

インターンシップや課題解決型学習を経験

企業と関わるPBLやインターンシップを通して、これまで学んだ生命科学の知識を社会に活用するための知見を広げます。また、秋学期からは研究室に所属し、専門分野の学びを深めます。

- 公衆衛生学
- 保全生物学
- 生命科学PBL2
- 生命科学インターンシップ など

卒業研究にに取り組む

実験による研究活動や、社会と連携した課題探究活動を行います。4年間の集大成として卒業論文をまとめ、口頭発表も行います。

- 環境生命科学特別研究2

卒業研究テーマ例：

- ・ゲノム編集技術を巡る科学コミュニケーションの分析
- ・記事分析及び科学コミュニケーションの四分法法を適用して
- ・ビャクシンにおける異形葉の様態の解明

PickUp授業



生命科学PBL 1

生命科学の知見や技術が解決策と期待される医療、農林水産業、環境保全分野における課題を題材として課題解決に取り組むことで、実社会で必要となる心構えやスキルを学びます。

PickUp授業



サイエンスコミュニケーション

現代生命科学と社会の関わりについて、サイエンスコミュニケーションの視点から生命科学の情報を社会で共有する必要性を認識するとともに、その手法を学びます。

PickUp授業



生命科学インターンシップ

学生自身の関心に関連した企業などの最前線での就業体験を中心とし、それに伴う事前事後学習を通して社会人基礎力を養成します。

PickUp授業



里山生態学

里山の生態系の特徴・重要性とその保全方策などについて、生態学だけでなく社会科学的な観点からも理解し、里山の変化を定量的に把握するための技法を学びます。



横山 謙 教授

先端生命科学科

専門分野：生化学、構造生物学、生物物理学、細胞生物学

Topic :

「生命のエネルギー通貨」である
ATP生産の仕組みを探究する

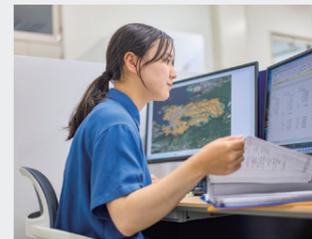
Outline :

「生命のエネルギー通貨」とも呼ばれるATP(アデノシン三リン酸)の生産・消費に関わるタンパク質の働きを研究しています。ATPは生命活動に不可欠な物質で、それに関わるタンパク質は癌や糖尿病などに深く関係しています。そのため、この研究は新薬の開発にもつながります。研究の特長は、生体分子を高解像度で観察できる「クライオ電子顕微鏡」を駆使したタンパク質の構造解析です。クライオ電子顕微鏡は、西日本の私立大学では本学だけが所有。他大学では実施が困難な最先端の研究に挑戦できます。学生は、京都大学や大阪大学との共同研究、Nature系列の国際科学雑誌への論文投稿、国内学での学会発表などさまざまな経験を積むことができます。その結果、在学中に学会賞などを受賞する学生も少なくありません。そんな世界トップレベルの研究を通して、研究力と問題解決能力を着実に高められる研究室です。

Profile :

生体エネルギー学、ATPシステム学、生体膜エネルギー変換をテーマに研究に取り組む。最先端のクライオ電子顕微鏡を用いて、複雑な構造の膜タンパク質の形を日本で最初に明らかにした。現在は、製薬会社と共同研究も進行中。

先端生命科学科



三瓶 由紀 准教授

産業生命科学科*

専門分野：環境農学、自然共生システム学、地域農学

Topic :

地域の食農システムは
いかにあるべきかを考える

Outline :

地域の伝統野菜や農産物の価値をどう高めるか。資源を地域内で循環させるにはどんな仕組みが必要か。そうした問いに対し、生産・消費フローや地域特性、人々のむすびつきも踏まえて研究しています。学生は興味に応じて自由にテーマを設定し、主体的に研究に取り組みます。研究室では、社会統計解析や地理情報システム(GIS)を活用したデータ分析に加え、インタビューや植生調査といったフィールドワークの両面を重視しています。京都の伝統野菜を収穫したり、和歌山の薪炭林で学修したりとさまざまな活動を行っています。また、ゼミナール合宿、国内外の共同研究など視野を広げる機会も豊富です。多彩な経験を通して、学生は食・農に関する専門的な知識や情報分析能力を修得。地域の課題を多角的な視点で考え、能動的に行動できる人材に成長し、持続可能な社会づくりに貢献してほしいと考えています。

Profile :

東京大学および東京大学大学院にて農学・緑地環境学について探究。公務員として地方行政に携わった後、国立環境研究所や和歌山大学で研究。ニューヨーク州立大学での客員研究員などを経て、2019年に京都産業大学に着任。

LABORATORY

研究室紹介

Topic :

生物の体がつくられる
メカニズムの解明に挑む

Outline :

「発生生物学」は、多細胞生物が生まれるまでの過程を扱う学問です。中でも哺乳動物の受精卵が胎児へ成長する段階で起こる、ダイナミックな形の変化に注目しています。受精直後の「胚」の器官は左右対称ですが、やがて左右非対称に変化します。なぜ変化が起きるのか、どのように変化するのか、そのメカニズムの解明に取り組んでいるところです。研究室では、マウス細胞の顕微鏡観察などをとに解析を進めています。調査分析の結果、血管が左右非対称な器官を作る上で重要な役割を果たしていることが明らかになりました。研究成果は遺伝的な疾患の医学的アプローチや再生医療にも貢献できると考えています。卒業生の中には不妊治療の胚培養士の道に進んだ人も少なくありません。生まれてくるまでに動物の体に起こる変化は見事で、美しくさえあります。その神秘的な成り立ちを一緒に探究しましょう。



白鳥 秀卓 教授

先端生命科学科

専門分野：発生生物学

Profile :

東京農工大学農学部卒業後、大阪大学医学系研究科に進学。発生生物学の研究で博士号を取得。内臓器官が左右非対称にできるしくみを解明すべく、KOマウスやトランスジェニックマウスによる研究を継続。2016年に京都産業大学に着任。

Topic :

科学の先端技術を社会の視点から研究し
社会への伝え方を考える

Outline :

科学コミュニケーションとは、科学の面白さや科学技術をめぐる課題を広く伝え、共に考えることを目指した活動です。私は生命科学、特に幹細胞やゲノム編集技術などをテーマに研究しています。ゲノム編集技術を用いると、受精卵のDNAを書き換え遺伝子の働きを意図的に変えることができます。「病気治療のためにゲノム編集をヒト受精卵に実施して良いか」などの問題を社会全体で考えることは大切です。そのために生命科学に関する議論を促すカードや先端技術を学べるすごろくゲームを制作してワークショップで活用し、さまざまな人が議論できる場を創造しています。また、生命科学の技術を医療や食品などに応用する際の倫理的・法的・社会的課題についても研究を進めています。学生には身に付けた力を生かし、ライフサイエンスに関わる産業の担い手や科学ジャーナリストとして活躍してほしいと思います。



川上 雅弘 准教授

産業生命科学科*

専門分野：科学コミュニケーション、科学教育、生命倫理、動物発生工学



Profile :

奈良県出身。生き物への興味から農学部に進学。大学院で体細胞クローン動物の作出に没頭し、実験の楽しさに魅了される。同時に生命倫理や科学技術がもたらす社会課題の重要性を痛感し、文科系に転じて研究を続けている。

※2027年4月 環境生命科学科に名称変更予定

SEMINAR & FACULTY



研究室&教員DATA 2026年3月現在

先端生命科学科

ヒアルロン酸合成機構の解明とその応用

坂野 直樹 教授
専門分野: 生化学、分子生物学、分子腫瘍学など

“タンパク質の一生”を見守る品質管理のしくみ

潮田 亮 教授
専門分野: 細胞生物学、分子生物学、生化学など

細胞がミトコンドリアをつくるしくみ

遠藤 斗志也 教授
専門分野: 構造生物学、分子細胞生物学など

心と体をつなぐ情動系神経回路のしくみ

加藤 啓子 教授
専門分野: 神経科学、糖鎖生物学、実験動物学、獣医学など

環境微生物と植物の相互作用システムに関する研究

金子 貴一 教授
専門分野: ゲノム構造学など

細胞が死ぬしくみを明らかにし、細胞死と腸炎やがんなどの病気の関係を理解する

川根 公樹 准教授
専門分野: 細胞生物学、死の生物学など

植物が持つDNAレベルでの変異の維持機構の解明

河邊 昭 教授
専門分野: 集団遺伝学など

神経発生に関わる糖転移酵素の機能解析

黒坂 光 教授
専門分野: 生化学など

内臓器官が左右非対称にできるしくみ

白鳥 秀卓 教授
専門分野: 発生生物学など

鳥インフルエンザウイルスの生態と病原性発現機構に関する研究

高桑 弘樹 教授
専門分野: 獣医微生物学、感染症学など

遺伝子情報をもとに刺さないミツバチをつくる

高橋 純一 准教授
専門分野: 分子生態学、養蜂学など

小型魚類から探る動物のからだづくりのしくみ

武田 洋幸 教授
専門分野: 発生生物学、発生遺伝学など

平滑筋の収縮調節メカニズムの解明

榎橋 靖行 准教授
専門分野: 獣医薬理学など

タンパク質の合成と機能発現の仕組みの解明

千葉 志信 教授
専門分野: 分子生物学、細胞生物学など

タンパク質の形から迫る二成分毒素の作用機構

津下 英明 教授
専門分野: 構造生物学、生物物理学、タンパク質科学など

臓器形成・がんの増殖・運動におけるゴルジ体の役割の解明

中村 暢宏 教授
専門分野: 細胞生物学、生化学、分子生物学、発生生物学など

ウイルス感染による発病のしくみを探る

西野 佳以 准教授
専門分野: ウイルス学、免疫学など

生命がRNAを制御する原理の解明

三嶋 雄一郎 教授
専門分野: 分子生物学、発生生物学など

昼夜の環境変化に対応する植物のしくみ

本橋 健 教授
専門分野: 植物生理学、生化学など

ATPシステムの機能・構造生物学

横山 謙 教授
専門分野: 生化学、構造生物学、生物物理学、細胞生物学など

環境生命科学科*

生命科学と社会をむすぶサイエンスコミュニケーションの研究

川上 雅弘 准教授
専門分野: 科学コミュニケーション、科学教育、生命倫理、動物発生工学など

植物は変動する環境にどのように応答するのかを解明する

木村 成介 教授
専門分野: 植物環境応答学、生態進化発生学など

卵細胞のバイオロジー、生命科学と社会の対話

佐藤 賢一 教授
専門分野: 生化学、細胞生物学、分子生物学など

地域の食農システムはどのようなであり、いかにあるべきかを考える

三瓶 由紀 准教授
専門分野: 環境農学、自然共生システム学、地域農学など

動物にも人にも感染する細菌の生態と病原性

染谷 梓 准教授
専門分野: 獣医微生物学など

高等植物のオルガネラゲノムならびにオルガネラ遺伝子に関する研究

寺地 徹 教授
専門分野: 植物分子遺伝学、植物オルガネラゲノミクスなど

グリーンインフラによる自然を生かした防災減災・地域活性化を促す政策

西田 貴明 教授
専門分野: 生態学、環境政策学など

動物の遺伝的多様性の保全と品種改良への利用

野村 哲郎 教授
専門分野: 動物育種学、集団遺伝学、保全遺伝学など

節足動物が伝達する感染症は如何に起こるか

前田 秋彦 教授
専門分野: ウイルス学、環境衛生学など

藻類が光環境に応じて泳ぎ方を変えるしくみとその意義

若林 憲一 教授
専門分野: 細胞生物学(細胞運動)、植物生理学、光生物学など

GRADUATE'S INTERVIEW

卒業生紹介

・ INTERVIEW ・

第一三共株式会社 勤務

山田 等仁 さん

総合生命科学部 生命資源環境学科 (現: 生命科学部) 2018年卒業
大学院生命科学部 生命科学専攻 博士後期課程 2023年修了

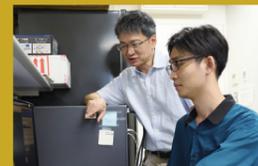
Q. 現在のお仕事の魅力を教えてください。

大学時代からタンパク質の構造の解析に取り組み、未知のタンパク質を解析し、その構造を世界で初めて目にできることに魅力を感じています。現在は、創業のために医薬品のもととなる化合物とタンパク質の複合体の構造を解析しており、研究を通じて人々の健康に貢献できる点もやりがいです。

Q. 大学時代、研究以外の取り組みや活動で、自身が成長する機会がありましたか？

理系3学部共通のグローバル・サイエンス・コースでは、他学部の学生や留学生と共に学ぶことで、英語運用能力やコミュニケーション能力を高めるだけでなく、多角的なものの見方や考え方に触れることができました。自分たちでカフェトークの場を設けるなど、意欲的に学ぶ姿勢も身に付きました。

学生時代の思い出



京都産業大学の研究設備は非常に充実しており、津下英明教授の熱心な指導とともに恵まれた環境で研究に打ち込むことができました。大学院では学会発表の機会も多数いただき、関連学会の奨励賞も受賞しました。

卒業生

研究者としての基礎を築くとともに、多様な学生との交流を通して成長を実感

※2027年4月 産業生命科学科から名称変更予定



CAREERS キャリアサポート

文部科学省に最優秀賞と認められたキャリア実習をはじめ、入学直後から卒業まで多彩なキャリア形成支援プログラムを展開。低年次から自分のキャリアを描く機会を設け、社会で生き抜く力を育てます。就職活動では、約40人の専任スタッフが年間約12,000回の個別面談を実施するなど、きめ細かにサポート。こうして培われる資質や能力は、卒業生が就職した企業や社会からも高く評価されています。

就職率(生命科学部)

97.6%

2024年度実績

資格

資格受験専門学校による講義を、特別価格で受講できます。講師は実績のある専門学校の受験対策スペシャリスト。資格サポート室とタッグを組み、資格・講座選びから合格まで徹底的にサポートします。

取得可能な教員免許状

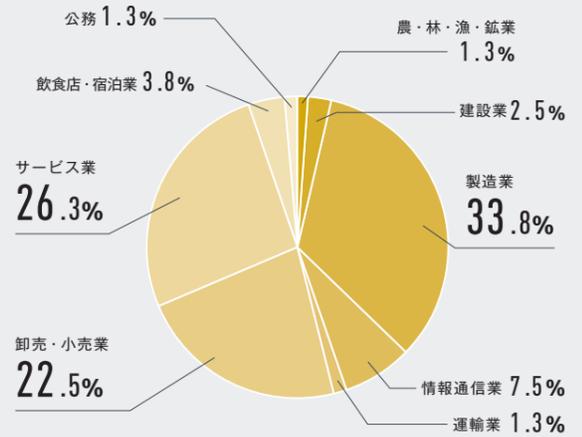
- 中学校教諭一種免許状(理科)
- 高等学校教諭一種免許状(理科)

取得可能な資格

- | 先端生命科学科 | 環境生命科学科* |
|-----------------|----------------|
| ■ 実験動物1級技術者 | ■ 自然再生士補 |
| ■ ペット栄養管理士 | ■ 2級ピオトップ計画管理士 |
| ■ 食品衛生管理者(任用資格) | ■ 学芸員 |
| ■ 食品衛生監視員(任用資格) | |
| ■ 学芸員 | |

※2027年4月 産業生命科学科から名称変更予定

就職先 業種割合



2024年度実績

※就職先業種割合については、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%とならない場合があります。

就職先一例(50音順)

- | | | |
|---------------|------------|----------------|
| アークレイ | 国立環境研究所 | 日本食研製造 |
| アルピオン | 小松製作所 | 日本新薬 |
| カナデピア | 埼玉動物医療センター | ピアス |
| キュービー | 沢井製薬 | 広島電鉄 |
| 京都青果合同 | 第一三共 | 北園新聞社 |
| クボタ環境エンジニアリング | 大和冷機工業 | 三菱自動車工業 |
| クラシエグループ | タカノフーズ | メディサイエンスプランニング |
| 興和 | ナカライテスク | 山崎製パン |

大学院進学率

32.3%

2024年度実績

「研究を究めたい」「専門性が必要な仕事に就きたい」という学生には、技術者・研究者を養成する大学院への進学を推奨しています。

STUDENT VOICE 大学院進学予定者



多彩な実験と最新機器を用いた研究で知識・スキルが向上

坂本 勇那 先端生命科学科 4年次(奈良市立一条高等学校出身)

1年次から実験・演習が多数あるのがこの学科の魅力です。DNAをPCRで増やしたり、マウスを解剖したりと多彩な実験を通して生命科学の理論を深く理解できました。同時に、実験技術も着実に修得できました。3年次からは研究室に所属し、タンパク質の謎を解明する実験方法の開発に挑戦しています。DNAシーケンサーをはじめ最新機器が完備され、思い描いた研究ができるので毎日が楽しいです。今後は大学院に進学し、さらに研究を深めます。



挑戦を後押しする環境で 自分の道を 切り開くことができた

内定者

株式会社堀場製作所 内定

萩野 姫奈

大学院 生命科学部 生命科学専攻 博士前期課程 2年次
(産業生命科学科* 2024年卒業)
(京都府立桃山高等学校出身)

Q. 生命科学部を選んだ理由は?

本学の生命科学部に、がんの遺伝子が進化の過程の中で淘汰されなかった理由を解明した研究室があり、その研究内容に興味を持ったからです。10代の頃からさまざまな現象の根本的な仕組みを知りたいと考えており、ここでなら私の取り組みたい研究ができるのではないかと考えていました。

Q. 本学での学びや経験が卒業後にどのように役立つと考えていますか?

研究室では生殖細胞の老化と受精の研究に取り組みました。研究で得た知見を生かし、受精卵の成長状態などを診断できる機器を開発したいと考えています。完成すれば、不妊治療の成功率向上や治療期間の短縮が可能になり、生殖医療の発展、患者さんの負担軽減につながると考えています。

学生時代の思い出



受精をメインテーマとする研究室で、私が興味を持っていた「老化」と関連付けたい新しいプロジェクトを立ち上げました。充実した設備や挑戦を後押しする環境のおかげで、実現できたのだと思います。

※2027年4月 環境生命科学科に名称変更予定

INTERVIEW

株式会社新日本科学 内定

内定者

小坂 和虎

先端生命科学科 4年次(京都市立西京高等学校出身)

Q. 内定につながった大学のサポートは?

学内で定期開催される合同企業説明会です。「京都産業大学の学生を採用したい」と考える多数の企業が参加し、内定先企業とも説明会で出会いました。また、卒業生が多彩な企業で活躍している点も本学の強みです。実際に私は、内定先企業で働く卒業生の方からお話を聞く機会をいただきました。

Q. 大学での学びや修得したスキルを、就職先でどのように生かしたいですか?

研究室ではボルナ病ウイルスにおける発病のメカニズムと予防法について、マウスを用いて研究しました。実験動物を扱う専門的な知識と技術、そして実験データを的確に解析するスキルが磨けました。内定先では、修得した技能を生かして医薬品の研究・開発に取り組み、人々の健康に貢献したいです。

学生時代の思い出



副コースの実験動物技術者養成コースで学び、「実験動物1級技術者」の資格を在学中に取得。成績優秀者として日本実験動物協会から表彰いただき、自信が付きました。就職活動でも資格が強みになりました。

内定へつながった高度な研究経験や「実験動物1級技術者」の資格

